

エコモットはIoTを通じて
より安心な社会の実現に貢献します

2019年3月期
第2四半期 決算説明資料

ECOMOTT

証券コード：3987

エコモット株式会社

2018年11月12日



社名	エコモット株式会社
代表者	代表取締役 入澤 拓也
設立	2007年2月（決算期：3月）
資本金	295百万円（2018年6月末現在）
本所在地	北海道札幌市中央区北1条東2丁目5-2 札幌泉第一ビル1F
従業員	95名（2018年11月1日現在、臨時従業員含む）
事業概要	IoTインテグレーション事業



代表取締役 入澤 拓也

経歴

- 1980年 北海道札幌市生まれ
- 2002年 米ワシントン州HighlineCommunityCollege卒
- 2002年 クリプトン・フューチャー・メディア株式会社入社
- 2007年 クリプトン・フューチャー・メディア株式会社退職
- 2007年 エコモット株式会社設立
- 2010年 小樽商科大学大学院 商学研究科
アントレプレナーシップ専攻修了
経営学修士（MBA）

企業理念

未来の常識を創る

コーポレートスローガン

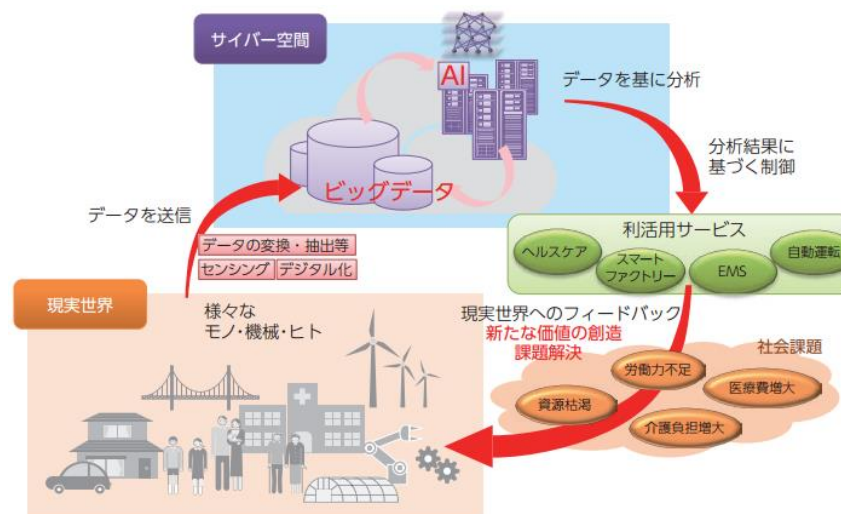
あなたの「見える」をみんなの安心に。

当社は創業以来、IoTインテグレーション事業を専業としています

IoTとは

Internet of Thingsの略で「モノのインターネット化」と訳され「あらゆるモノ」をインターネットに接続、データ収集により「現状の見える化」を実現すること

IoTで収集したデータをクラウド上に蓄積（ビッグデータ化）し統計解析、人工知能（AI）等の分析手法を活用してデータを知識に変え、サイバー空間から現実世界にフィードバックすることで効率化、高速化、安心・安全を提供し課題解決



(出典) 総務省「平成28年版 情報通信白書」

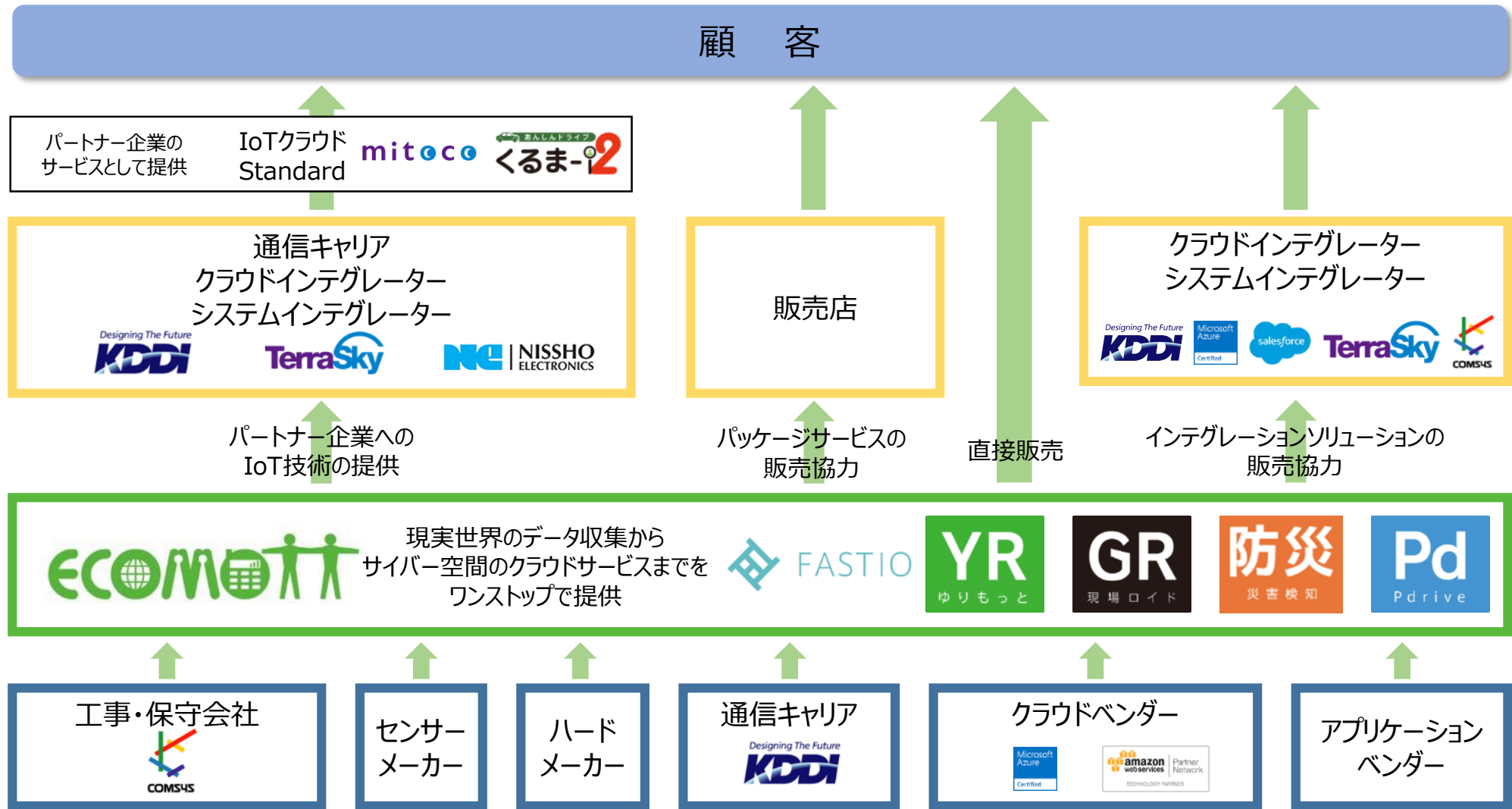
当社が提供してきたIoT

「データを収集・分析し、現実世界にフィードバックするサービス」を提供し続け、課題解決を実現

当社のIoTソリューション提供形態



IoT事業を展開する企業の多くはサイバー空間におけるサービス提供であるが、当社は現実世界のあらゆる「モノ・コト」からのデータ収集から、サイバー空間のクラウドサービスまでをワンストップで提供



創業以来、一貫してIoTインテグレーション専門プロバイダーとしてソリューションを提供

提供スタイル・ソリューション分類		プラットフォーム・パッケージサービス	
IoT インテグレーション事業	IoTプラットフォームをベースとした SIによるソリューション 顧客ニーズに合わせて的確にIoT導入を支援		 FASTIO IoTデータコレクト プラットフォーム FASTIO
	パッケージサービス を中心とした ソリューション	モニタリング ソリューション 遠隔でのカメラ監視によるソリューションを提供	 YR ゆりもつと 融雪システム遠隔監視 ソリューション ゆりもつと
		コンストラクション ソリューション ・工事現場の「安全管理」「生産性向上」 「作業精度向上」等の 総合情報化ソリューションを提供 ・増水、豪雨、突風、倒壊、土石流、土砂崩 れなどの自然災害の予兆・監視等の ソリューションを提供	 GR 現場ロイド 建設情報化施工支援 ソリューション 現場ロイド
			 防災 災害検知 自然災害の予兆を見える化 防災ソリューション
		GPSソリューション GPS技術を活用したソリューションを提供	 Pd Pdrive 交通事故削減 ソリューション Pdrive

1. 第2四半期決算概要

2. 事業運営の進捗状況、トピックス

3. 防災ソリューションの取り組み

4. 今期業績予想

5. Appendix

2019年3月期 第2四半期決算トピックス

前年同期、当初計画を共に上回り

売上高拡大

(対前期+8.1%、対計画+3.8%)

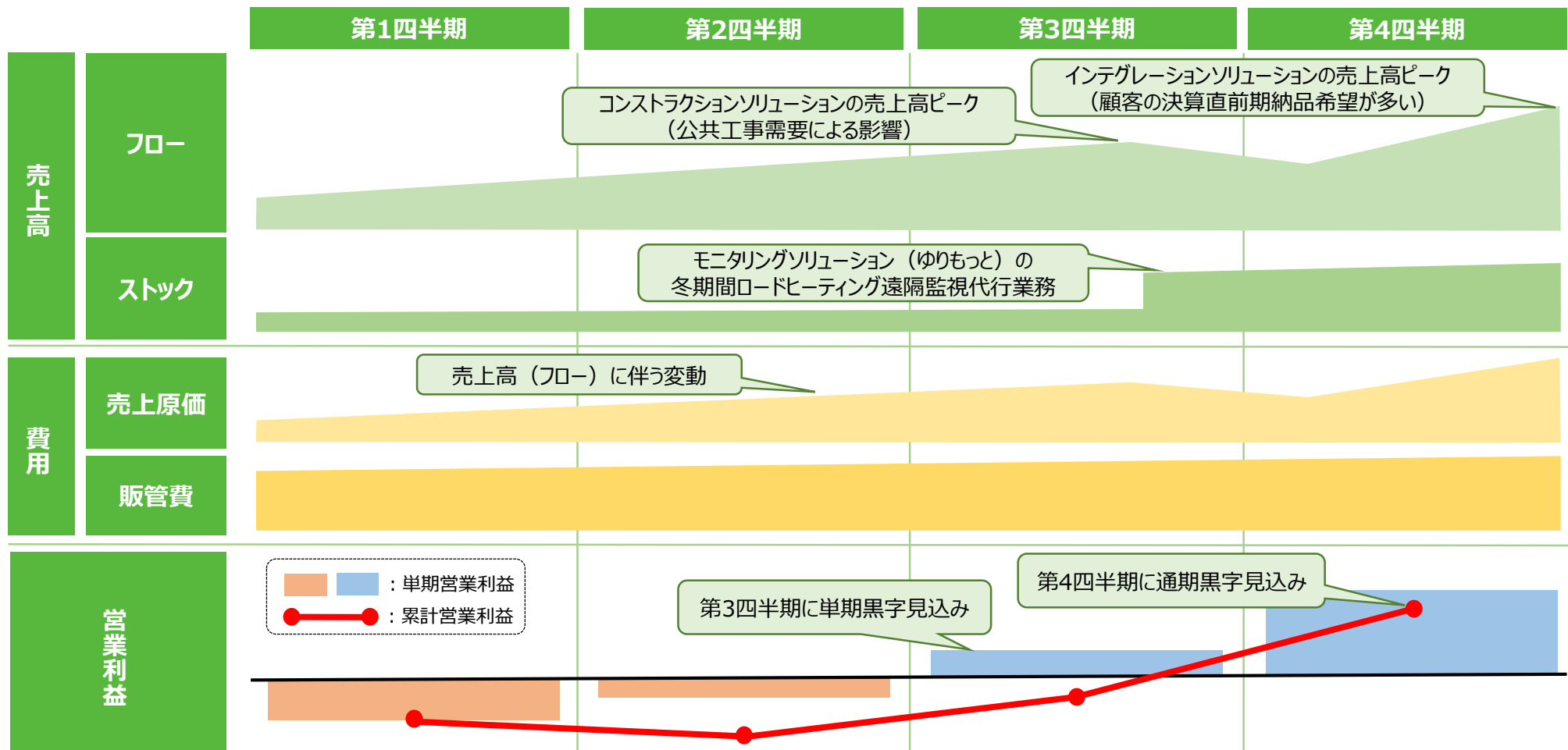
採用計画の順調な進捗による人件費・人材採用費増を
ストック比率向上等による売上総利益率の改善により

通期営業利益計画は堅調に推移
(対計画+22百万円)

(参考) 売上高・営業利益の季節的変動について

提供ソリューションの性質上、売上高が下半期に集中するため、営業利益は第1四半期、第2四半期はマイナスとなるが、第3四半期から単期黒字化、第4四半期に累計黒字化を見込む

■ 四半期ごとの売上高・営業利益のイメージ



業績ハイライト



売上高は670百万円（対前年+8.1%、対計画+3.8%）と好調に推移し、売上総利益率も32.4%（対前年+4.0Pt、対計画+2.4Pt）と向上し、販管費増の影響により営業損失は△70百万円（対前年△30百万円）であるが、対計画では+22百万と堅調に推移している

（単位：百万円）

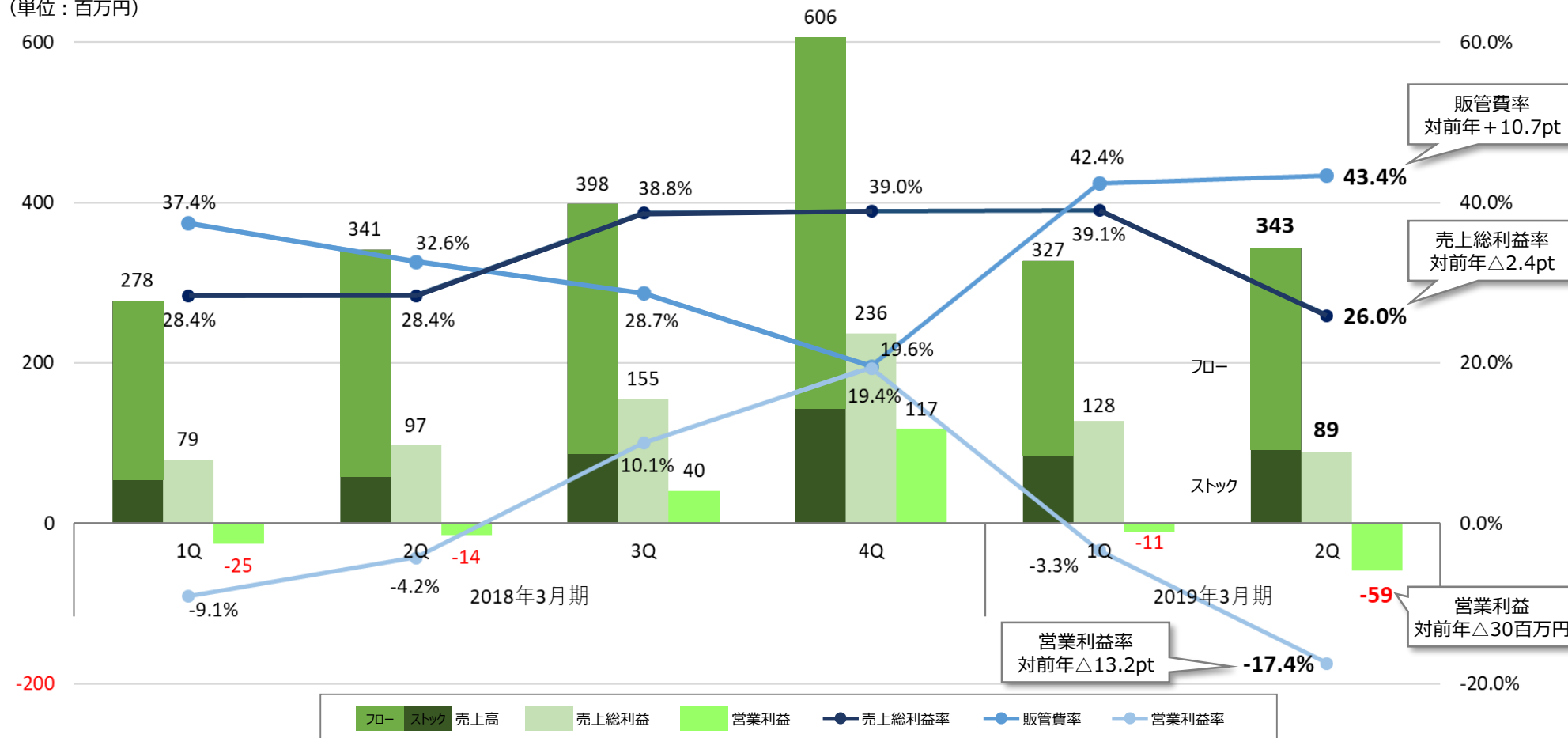
	2018年 3月期 2Q	2019年 3月期 2Q	前年同期比 (%)	当初計画	対計画比 (%)
売上高	620	670	+50 (+8.1%)	646	+24 (+3.8%)
売上総利益	175	216	+40 (+23.3%)	193	+23 (+12.1%)
売上総利益率	28.4%	32.4%	+4.0pt	29.9%	+2.4pt
営業利益	△39	△70	△30 (-)	△93	+22 (-)
営業利益率	△6.4%	△10.5%	△4.1pt	△14.5%	+3.9pt
経常利益	△50	△76	△25 (-)	△105	+29 (-)
経常利益率	△8.1%	△11.4%	△3.2pt	△16.3%	+4.9pt
純利益	△37	△53	△15 (-)	△73	+20 (-)
純利益率	△6.1%	△8.0%	△1.9pt	△11.4%	+3.4pt

四半期業績、各種指標推移

2Q単期での営業損失拡大（対前年△30百万）は、売上総利益率（対前年△2.4pt）、販管費率（対前年+10.7pt）の悪化のためだが、双方の悪化要因は当初計画で織り込み済みであり、2Q通期計画への影響はない

- ・売上総利益率悪化の主な要因は、前年の高粗利率個別案件による影響のためで、当初計画策定時に織り込み済み
- ・販管費率悪化の主な要因は、採用計画のリカバリーに向けた2Qでの短期集中的な活動強化による人件費・人材採用費増のため

(単位：百万円)



ソリューション別売上高の増減要因

GPSソリューション以外のソリューションの売上が対前年を上回り、合計売上高は670百万円（対前年+8.1%）、対計画では+24百万円（+3.8%）と堅調に推移

（単位：百万円）

	2018年 3月期 2Q	2019年 3月期 2Q	前年同期比 (%)	当初計画	対計画比 (%)	主な増減要因（対前年同期比）
インテグレーション ソリューション	42	80	+37 (+88.4%)	78	+2 (+3.6%)	<ul style="list-style-type: none"> ・KDDIとのアライアンス強化に伴う受注拡大、「ものづくり補助金」を活用した大口案件受注によるフロー売上増 ・累計契約数拡大によるストック売上増
コンストラクション ソリューション	285	306	+20 (+7.3%)	356	△50 (△14.1%)	<ul style="list-style-type: none"> ・高速道路工事の安全対策、九州北部豪雨対応等の防災案件等によるフロー増 ・受注件数拡大に伴う継続利用現場数増に伴うストック売上増 ・対計画差は、サインロイド2の好調な受注（10月過去最高）、防災の受注拡大により、リカバーを目指す ※防災の受注状況については25ページ参照
モニタリング ソリューション	24	28	+4 (+16.2%)	22	+6 (+31.6%)	<ul style="list-style-type: none"> ・モニター物件の正式導入等による新規導入、メンテナンス受注増によるフロー売上増
GPS ソリューション	266	254	△12 (△4.6%)	189	+65 (+34.3%)	<ul style="list-style-type: none"> ・OEM提供先の大口径取引先への営業活動一巡に伴う受注縮小によるフロー売上減 ・新規導入の堅調な推移に伴う累計契約数拡大によるストック売上増
計	620	670	+50 (+8.1%)	646	+24 (+3.8%)	

貸借対照表

東京証券市場マザーズ上場（2018年6月）に伴う公募増資により、自己資本が763百万円（+362百万円）となり、自己資本比率は51.7%（+17.5%）と向上

なお、公募増資での調達資金は、事業拡大に向けた製品製造、体制強化に向けた人件費に充当予定

（単位：百万円）

	2018年3月期 4Q (2018年3月31日)	2019年3月期 2Q (2018年9月30日)	増減
流動資産	1,109	1,266	+157
(現金及び預金)	248	324	+75
固定資産	166	210	+44
総資産	1,275	1,477	+201
有利子負債	578	483	△95
自己資本	436	763	+326
自己資本比率 (%)	34.3%	51.7%	+17.5pt

キャッシュ・フロー計算書



営業キャッシュフローの対前年△178百万円は、当初計画達成に向けた在庫増強による戦略的キャッシュアウト・フローが
主な要因

(単位：百万円)

	2018年3月期 2 Q (2017年9月30日)	2019年3月期 2 Q (2018年9月30日)	増減
営業活動による キャッシュ・フロー	△11	△189	△178
投資活動による キャッシュ・フロー	△4	△7	△3
財務活動による キャッシュ・フロー	67	272	+204

1. 第2四半期決算概要
- 2. 事業運営の進捗状況、トピックス**
3. 防災ソリューションの取り組み
4. 今期業績予想
5. Appendix

今期事業運営の主な進捗状況、トピックス (サマリー)

期首に掲げた3つの事業運営方針は、それぞれ順調に進捗しており、事業計画達成に向け第3四半期からも継続して事業運営の推進を強化 ※「期首に掲げた3つの事業運営方針」については次ページ参照（「2018年3月期 決算説明資料」からの抜粋資料）

今期事業運営方針	第2四半期の進捗状況、トピックス
<p>収益基盤安定に向けた コンストラクションソリューション (現場ロイド・防災) への営業リソース集中</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 営業関連人員強化 (現場ロイド) <ul style="list-style-type: none"> ・全営業所において計画人員数を上回る人員増強を達成、早期戦力化に向けて育成強化を推進 ■ 商品力強化による受注件数、受注単価の拡大 (現場ロイド) <ul style="list-style-type: none"> ・熱中症対策システム「ヒートロイド」の提供開始、記録的猛暑の影響から早期に受注獲得 ・遠隔監視カメラシステム「ミルモット」の新シリーズ提供開始に向けた開発推進 ■ 国土交通省「中小河川緊急治水プロジェクト (危機管理型水位計設置)」への対応 (防災) <ul style="list-style-type: none"> ・危機管理型水位計パッケージの受注 (売上計上は第3四半期) ・日本コムシスとのアライアンスによるエリア別面的営業活動を継続中 ■ 大型自然災害への対応 (防災) <ul style="list-style-type: none"> ・「平成30年7月豪雨 (西日本豪雨)」に対する防災ソリューションの継続提案 ・自然災害の予防、緊急対応に対するインバウンド案件へのクロージングに向けた活動強化 <p>⇒防災は「今後の防災ソリューションへの取り組み」において、活動状況、今後の活動等を説明</p>
<p>新規市場創造も視野に入れた 新製品・サービスの開発推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ LPWA各種規格への対応 <ul style="list-style-type: none"> ・ハンディ位置情報デバイス「HLP-200」の開発、「MOTENAZ CLOUD」での実証事業開始予定 ・LoRa搭載傾斜検知センサー「LRG-500/LRG-50」の提供開始に向けた開発推進 ■ 「IoT×新技術」での付加価値提供 <ul style="list-style-type: none"> ・古野電気との協業による高精度3次元変位計測システム「DANA CLOUD™」の開発 ・ドライブレコーダー映像のストリーミング配信技術を活用したビジネスモデル構築の検討
<p>営業・開発体制強化に向けた 人員採用強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 人員採用・育成強化 <ul style="list-style-type: none"> ・今期純増計画19名に対し11名純増 (進捗率57.9%) (参考) 11月1日時点では15名純増 (進捗率78.9%) であり、内定者も考慮すると達成する見込み

2019年3月期から2021年3月期の3ヶ年は、経営基盤の強化期間と位置付け、その1年目となる今期は以下の方針に基づき事業運営を推進

1. 収益基盤安定に向けたコンストラクションソリューション
 (「現場ロイド」「防災ソリューション」) への営業リソース集中
2. 新規市場創造も視野に入れた新製品・サービスの開発推進
3. 営業・開発体制強化に向けた人員採用強化

■ 2019年3月期業績予想

売上高 : 1,924百万円 (対前年 + 18.4%)
営業利益 : 133百万円 (対前年 + 13.1%)

「現場ロイド」への営業リソース集中

「現場ロイド」は、営業関連人員増強を計画以上に達成し、早期戦力化に向けて育成強化を推進していると共に、顧客ニーズを踏まえた新製品・サービス提供しており、「現場ロイド」の売上計画達成に向け順調に進捗

営業人員（フィールドセールス）の強化

■ 営業人員の採用状況

- ・全営業拠点の人員増強（対前期末比1.6倍）を達成
- ・営業サポートもパート社員を含めた人員増強により、フィールドセールスの活動効率化を推進し、売上拡大に貢献

◇ 拠点別フィールドセールス人員数

拠点	FY2018	FY2019			対計画差 (11/1時点)	対前期末差 (11/1時点)
	昨期末 人員数	計画 人員数	2Q末 人員数	11/1時点 人員数		
札幌	1名	2名	1名	2名	±0名	+1名
仙台	2名	2名	2名	3名	+1名	+1名
東京	1名	2名	1名	2名	±0名	+1名
北信越	1名	1名	1名	1名	±0名	±0名
関西	1名	2名	3名	3名	+1名	+2名
九州	2名	2名	2名	2名	±0名	±0名
合計	8名	11名	10名	13名	+2名	+5名

※札幌の増員については社内異動により対応

■ 今後の取り組み

- ・採用人員の育成強化による早期戦力化の推進
- ・今期利益計画進捗状況、来期人員計画を踏まえながら、優秀な営業人員獲得に向けた採用活動を継続

商品力強化による受注件数、受注単価の拡大

■ 熱中症対策システム「ヒートロイド」の提供開始

- ・記録的な猛暑の影響もあり、7月11日の提供開始から2ヶ月弱で2件受注



現地の暑さ指数（WBGT）に加え、民間気象予報から配信される1時間後の予測値も同時表示し、従業員への暑さ対策を講じることで熱中症のリスク軽減

■ 遠隔監視カメラシステム「ミルモット」新シリーズ提供開始に向けた開発推進

- ・更なる安全性向上、効率化推進を実現するため、現場の「生の声」を聴ける強み活かし、実用性の高い製品・サービス提供に向けて開発推進



エッジAIカメラ活用システム

エッジAIカメラ本体のGPU（画像処理用演算プロセッサ）によるリアルタイム画像解析等により、リアルタイム性、ランニングコスト（通信料・クラウド側解析コスト）低減を両立したAI画像解析ソリューションを提供可能



ウェアラブルカメラ システム

小型カメラから送られる作業者目線のリアルタイム映像を、遠隔地から閲覧可能
※画像はプロトタイプであり実際の製品とは異なります

■ 今後の取り組み

- ・「i-Construction」に準拠した新製品・サービスの開発推進
- ・NETIS取得による新製品・サービスの付加価値向上

LPWA各種規格への対応、「IoT×新技術」での付加価値提供

LPWA対応端末開発は計画通り進捗、今期内の売上・利益計上に向け、早期受注獲得に向けた営業戦略策定中
「IoT×新技術」の製品・サービスについても早期提供開始に向けて開発を推進

LPWA各種規格への対応

■ セルラーLPWA (LTE-M) への対応

- ・ハンディ位置情報デバイス「HLP-200」開発のプレスリリース (11月8日)



低コストで手軽に人やモノの動体管理を可能とする小型で軽量のハンディ位置情報デバイス

2018年内の提供開始を予定し、2020年までに3万台の販売を目指す

本端末に対応したクラウドサービス「MOTENAZ CLOUD (モテナス クラウド)」にて、実証事業を開始予定

■ LoRaへの対応

- ・LoRa搭載傾斜検知センサー「LRG-500/LRG-50」の開発推進



・仮囲い鋼板の転倒監視

建設現場で使用されている仮囲い鋼板にセンサーを設置し、強風などで転倒する前の予兆検知が、LoRaの活用により安価で手軽に導入可能

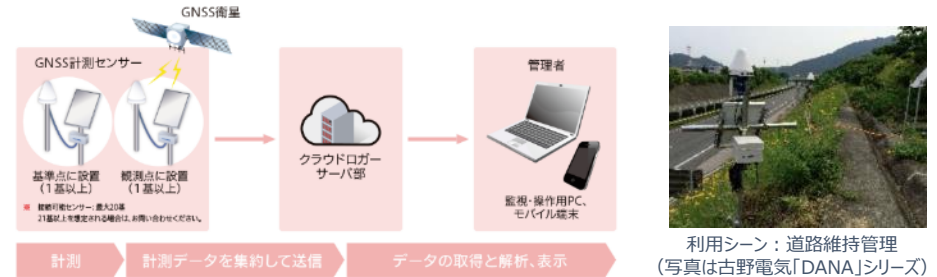
・地滑りの安全対策

地滑りの恐れがある箇所複数に杭に接続したセンサーを設置し、予兆検知した際にメール、サイレン等周囲の住民への通知が可能

「IoT×新技術」での付加価値提供

■ 「IoT×GNSS (衛星測位システム)」

- ・古野電気との協業による、みちびき (準天頂衛星システム) 対応高精度3次元変位計測システム「DANA CLOUD™」の早期提供開始に向けて開発推進



地盤等の変位ミリメートルオーダーで計測し、計測データをクラウド上で管理可能
建設現場のみではなく、防災分野へ展開も大いに見込まれる

■ 「IoT×ストリーミング配信」

- ・業界初※のLTE通信搭載のドライブレコーダー映像のストリーミング配信技術を活用したビジネスモデル構築の検討、および更なる機能拡張に向けた開発推進
- ※LTE通信搭載ドライブレコーダーでは業界初(当社調べ)



■ 今後の取り組み

- ・製品・サービスの早期提供開始に向けた開発推進
- ・提供開始時の早期受注獲得に向けた営業戦略の策定

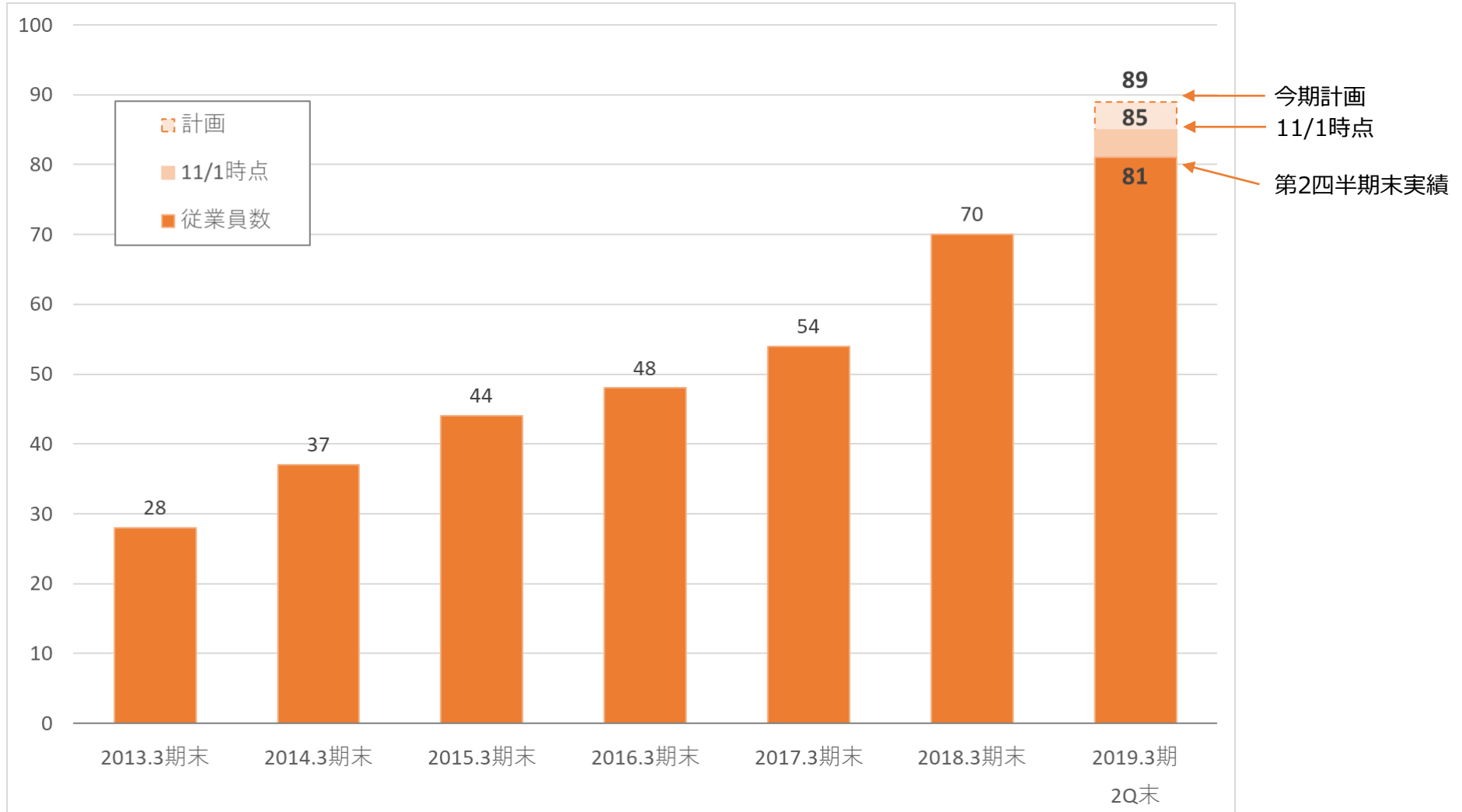
■ 今後の取り組み

- ・製品・サービスの早期提供開始に向けた開発推進
- ・新規市場開拓も視野に入れたビジネスモデル構築の検討継続

営業・開発体制強化に向けた人員採用強化

第2四半期は、今期純増計画19名に対し11名純増（進捗率57.9%）と順調に推移、11月1日時点では15名純増（進捗率78.9%）であり、既に決定している内定者も考慮すると人員計画は達成する見込み

（単位：人）
※臨時雇用者数含まず



1. 第2四半期決算概要
2. 事業運営の進捗状況、トピックス
- 3. 防災ソリューションの取り組み**
4. 今期業績予想
5. Appendix

昨年からの大規模災害とエコモットの対応

エコモットの防災ソリューションは「センサー、通信デバイス、ソーラー電源、モバイル回線、クラウドアプリケーション等」を安価でワンストップ、且つ短納期で提供可能な点を評価され、昨年からの大規模災害においても導入されている

平成29年7月九州北部豪雨

2017年7月5～6日に九州北部（福岡県、大分県等）に生じた集中豪雨で、土砂災害や浸水等の被害が発生



エコモットの対応

災害後も多くの河川にて、水位計による増水状況、突発的な増水に対するワイヤーセンサー設置による24時間監視の必要性が生じ、「河川増水状況監視システム」を導入

- ・2017年8月：「河川増水状況監視システム」納品
 - ・2018年5月：「河川増水状況監視システム」納品
- ※2018年案件は「危機管理型水位計」として納品

平成30年7月豪雨（西日本豪雨）

2018年6月28日から7月8日に西日本に生じた記録的な大雨で、土砂災害や浸水等の被害が発生



エコモットの対応

災害後も多くの河川にて、水位計による増水状況、突発的な増水に対するワイヤーセンサー設置による24時間監視の必要性が生じ、「河川増水状況監視システム」の導入検討

- ・「河川増水状況監視システム」を継続提案中

北海道胆振東部地震

2018年9月6日に北海道胆振地方中東部に生じた最大震度7の地震で、土砂崩れ等の被害が発生



エコモットの対応

厚真町にて地滑りが多発し、二次災害防止のため危険地帯の24時間監視が必要が生じ、「緊急災害用監視カメラシステム」を導入

- ・2018年10月：「緊急災害用監視カメラシステム」納品
- ※設置状況は次ページ参照

「北海道胆振東部地震」における防災システム設置状況

北海道胆振東部地震により厚真町において地滑りが多数発生するとともに地盤も緩んでいる状態であり二次災害防止に向けて、危険箇所を24時間監視する必要が生じたため、「緊急災害用監視カメラシステム」9セットを設置



厚真町へ設置時の被災状況



設定済みの状態でシステムをワンストップで提供するため、どのような場所でも簡単に設置可能



ソーラー電源、モバイル回線を利用するため、電源、通信回線がない場所でも設置可能



遠隔での監視により二次災害を防止

当初予算の段階で多額の予算が防災関連施策に計上されており、平成30年7月豪雨（西日本豪雨）、北海道胆振東部地震の発生により、第一次補正予算総額の77.8%である7,275億円が防災関連予算として計上

2018年度当初予算

国土交通省における河川氾濫、土砂災害を管轄する水管理・国土保全局の予算概要

一般公共事業費 8,014億円（対前年1.00倍）

エコモットの防災ソリューションに関連する主要項目

治水事業等関係費

防災意識社会への転換の加速化

水害の頻発激甚化に対応する治水対策

3,917億円

地域を守る総合的な土砂災害対策 **768億円**

公共施設のストック管理・適正化 **2,021億円**

i-Water2.0 ～ICT 活用の加速化～

⇒**危機管理型水位計の設置**

（中小河川緊急治水対策プロジェクト）

2018年度第一次補正予算（11月7日成立）

第一次補正予算総額 9,356億円

西日本豪雨、北海道胆振東部地震等の自然災害からの復旧・復興予算

7,275億円（予算総額の**77.8%**を防災へ）

国土交通省における第一次補正予算

3,395億円（全て災害対応予算）

西日本豪雨への対応 **2,066億円**

北海道胆振東部地震への対応 **767億円**

その他の災害への対応 **561億円**

短期間で連続発生した大型災害（「平成30年7月豪雨（西日本豪雨）」「北海道胆振東部地震」）により、政府の防災への意識は更に高まり、第一次補正予算の8割弱が自然災害からの復旧・復興予算へ充てられる

昨期からの継続的な営業活動により、大型災害における防災ソリューションの受注とともに、「危機管理型水位計」の受注も増加している。今後も日本コムシスとのアライアンスによる営業活動等により、更なる受注拡大を目指す

大型災害に対する活動状況

■「平成29年7月北九州北部豪雨」における受注、提案継続

- ・「河川の増水状況監視のシステム」受注（1Q計上）、ほか継続提案中案件あり

■「平成30年7月豪雨（西日本豪雨）」における提案継続

- ・「河川の増水状況監視のシステム」の継続提案中

■「北海道胆振東部地震」における受注

- ・「緊急災害用監視カメラシステム」受注（3Q計上）

国土交通省における防災関連施策に対する活動状況

■「危機管理型水位計」の受注、更なる受注拡大に向けた営業活動強化

- ・約30件程度受注（3Q計上予定）、ほか受注確度の高い案件多数あり
- ・日本コムシスとのアライアンスによる、全国エリアへのローラー営業活動開始

■国土交通省防災事業における受注

- ・「災害用監視カメラシステム」受注（3Q計上予定）、ほか別案件の提案中案件あり

- ・国土交通省の中小河川緊急治水プロジェクトにおける観測基準に準拠した「危機管理型水位計パッケージ」を提供開始
- また、古野電気との協業による「DANA CLOUD™」を今期中の提供開始に向けて開発を推進
- ・「北海道胆振東部地震」時に課題となった外国人観光客への災害支援に対応した「MOTENAZ CLOUD」を開発し、第三四半期より自治体・企業等による実証事業を開始予定

自治体向け防災ソリューション開発

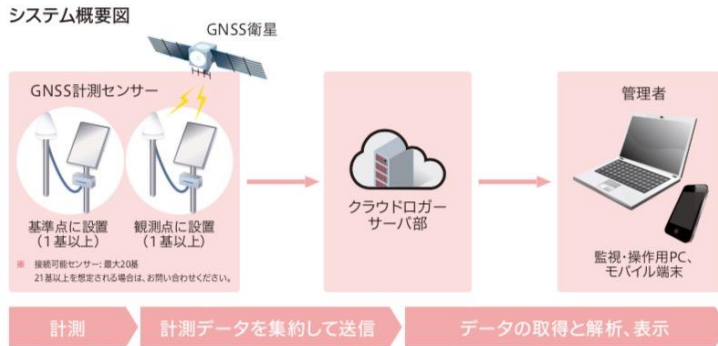
■「危機管理型水位計パッケージ」の提供開始（提供開始）

- ・国土交通省が策定した観測基準に準拠する危機管理型水位計に対応可能な「危機管理型水位計パッケージ」を提供開始

■古野電気との協業による、みちびき（準天頂衛星システム）対応の高精度3次元変位計測システム「DANA CLOUD™」の早期提供開始に向けて開発推進（今期提供開始予定）

- ・地盤変位や人工構造物の変位をミリメートルオーダーで計測し、計測データをクラウド上で管理可能な高精度3次元変位計測システム

■主な利用シーン



火山活動による
山体膨張・収縮などを監視



地盤が緩いエリアにおける
がけ崩れの予兆監視

BtoBtoC向け防災ソリューション開発

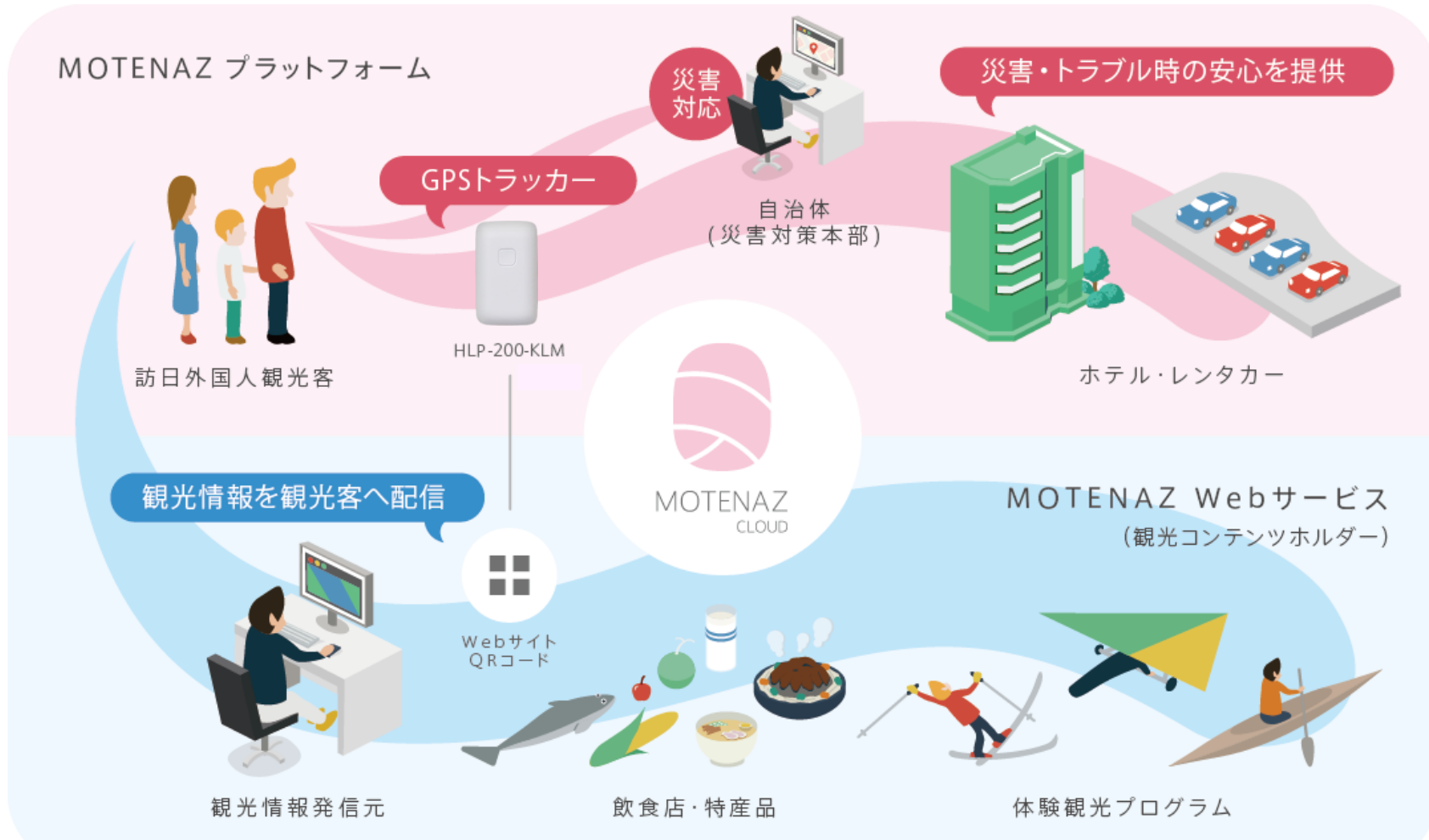
■「MOTENAZ CLOUD」による外国人観光客への防災情報提供（3Qより実証事業開始予定）

- ・セルラーLPWA（LTE-M）対応のハンディ位置情報デバイスと「MOTENAZ CLOUD（モテナス クラウド）」により、災害発生時に外国人観光客の位置情報を自治体が把握し、被災者へ適宜必要な災害支援情報の配信をアシストするサービス

BtoBtoC型防災ソリューション「MOTENAZ CLOUD」のサービス概要



「MOTENAZ CLOUD」は、ハンディ位置情報デバイス（HLP-200）から収集した位置情報データを活用し、平常時は外国人観光客の満足度向上および安全な滞在に向けた「おもてなしツール」、災害時には位置情報を元にした支援活動を迅速に行うための「安否確認ツール」として、状況に応じたサービスを提供



「MOTENAZ CLOUD」の提供開始に向け、北海道内の自治体・企業等との実証事業を3Q内に開始予定

1. 第2四半期決算概要
2. 事業運営の進捗状況、トピックス
3. 防災ソリューションの取り組み
- 4. 今期業績予想**
5. Appendix

通期業績予想



各ソリューションの売上高は堅調に推移しているが、下半期偏重のビジネスモデルのため売上高の進捗に不確実性が伴うことから、現段階においては通期業績予想を据え置く

※「下期偏重の事業構造」については、「（参考）売上高・営業利益の季節的変動について」（8ページ）を参照

（単位：百万円）

	2018年3月期 通期実績	2019年3月期 通期予想	前年比
			差額・比率
売上高	1,625	1,924	+298 (+18.4%)
営業利益	117	133	+15 (+13.1%)
営業利益率	7.3%	6.9%	△0.3pt
経常利益	115	120	+4 (+4.1%)
経常利益率	7.1%	6.3%	△0.9pt
純利益	79	82	+3 (+5.0%)
純利益率	4.9%	4.3%	△0.6pt

1. 第2四半期決算概要
2. 事業運営の進捗状況、トピックス
3. 防災ソリューションの取り組み
4. 今期業績予想
- 5. Appendix**

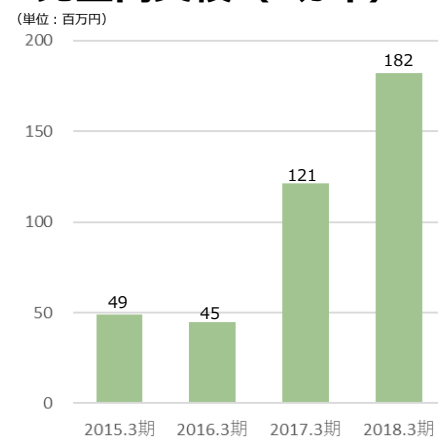
インテグレーションによるソリューション



IoTデータコレクトプラットフォーム「FASTIO」により、センシングからデータの蓄積・分析、フィードバックまでワンストップで提供することで、顧客ニーズに合ったIoT導入を実現し、課題解決を支援



■売上高実績 (4カ年)



■導入事例

・会議室の効率的運用

会議室のドア開閉センサー、室内の人感センサーから取得したデータをクラウド上で連携した会議室予約システム上のステータスを突合することで、会議室の効率的運用を実現



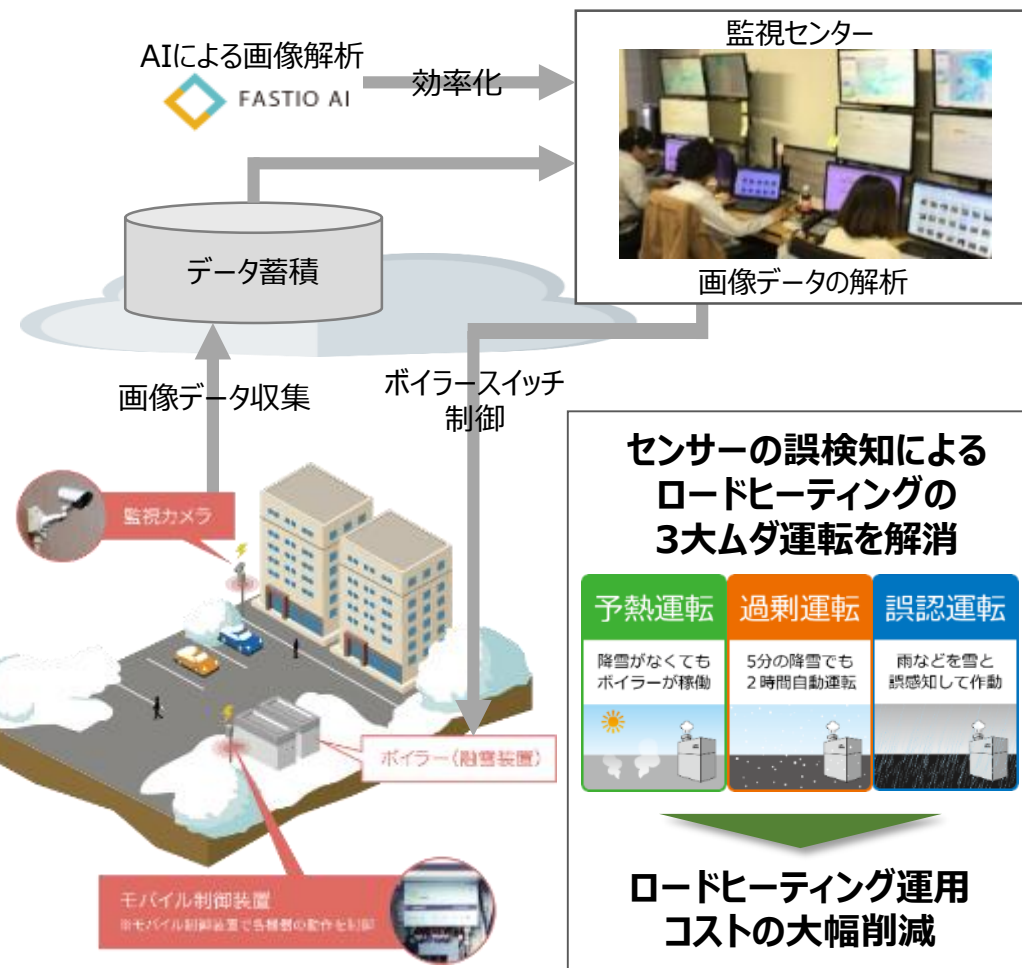
IoTに必要な全ての要素を顧客ニーズに合わせてワンストップで提供

「ゆりもっ」と紹介（雪のIoT）

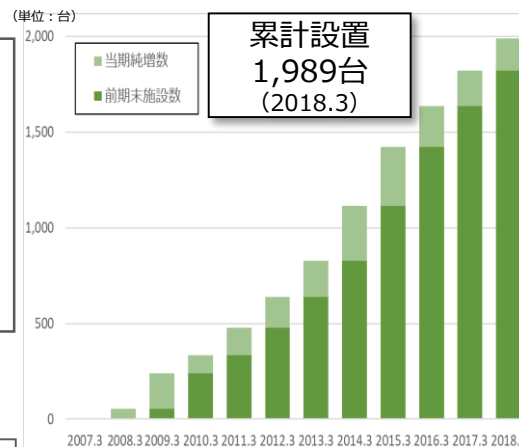


創業事業として融雪システム遠隔制御代行サービス「ゆりもっ」を提供、北海道・北東北を中心に2,000台弱設置し、冬期間の大幅な省エネルギーを実現

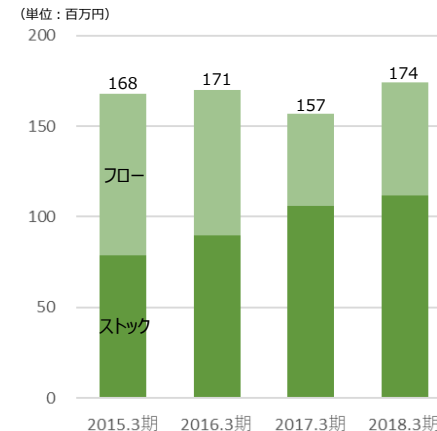
■ サービスイメージ



■ 設置実績



■ 売上高実績（4カ年）



■ 導入事例

札幌市西区賃貸マンションへの導入

- 融雪面積：1,116㎡
- 設備状況：融雪ボイラー8台

1シーズン平均効果額
1,414,800円

導入後8シーズンで
平均56%の削減効果

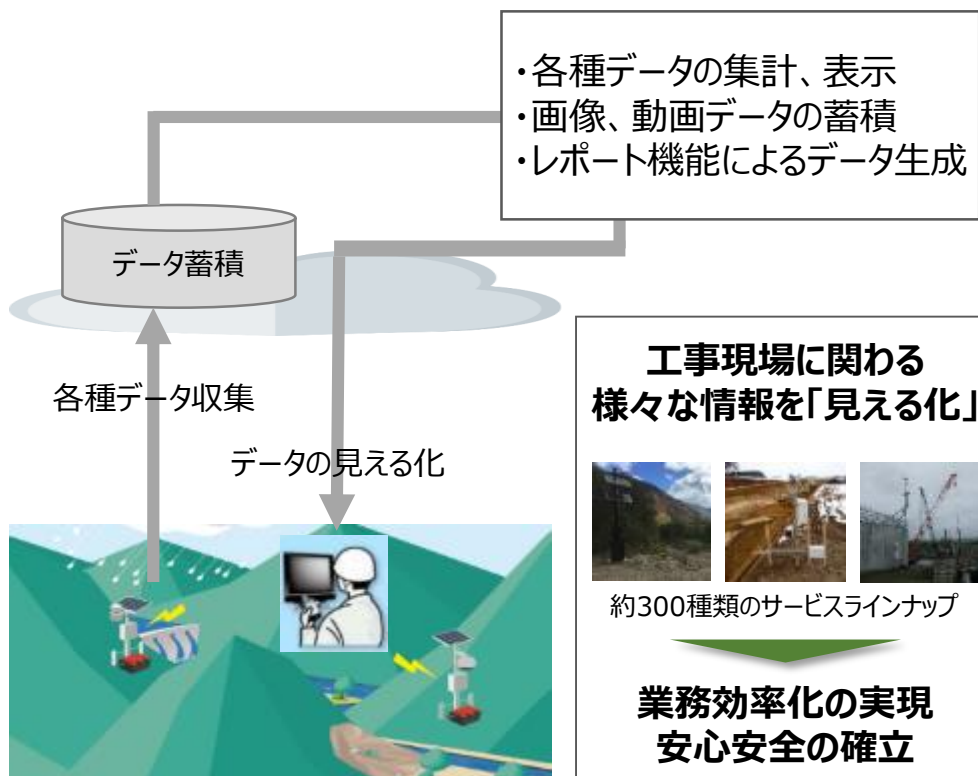


「現場ロイド」紹介（土木工事のIoT）



建設情報化施工支援ソリューション「現場ロイド」を2010年以来、6,500件以上の工事現場に設置し、工事現場の安全性向上、業務効率化、品質向上に大きく貢献

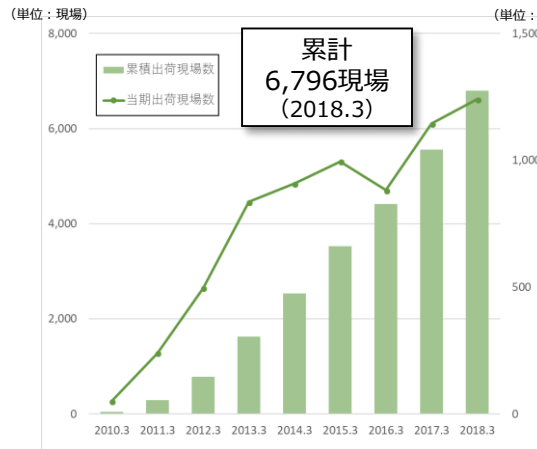
■ サービスイメージ



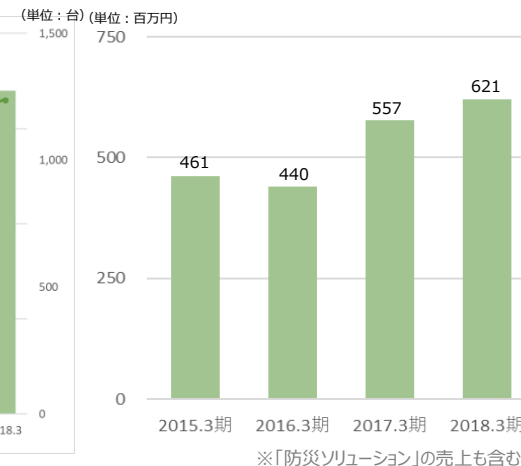
（参考）NETIS（新技術情報提供システム）について

NETISとは、民間の有用な新技術を積極活用するための国土交通省のデータベースであり、総合評価落札方式にて、NETIS登録技術を提案した場合、加点対象となる現場ロイドでは6技術がNETIS登録されており、多くの公共事業にて導入されている

■ 設置実績



■ 売上高実績（4カ年）



■ サービス事例

・クラウドロガー（遠隔クラウド計測システム）

風速、雨量、水位など現場の様子を自動計測データはクラウド保存されどこからでも確認可能設定値に応じ警報装置と連動し、安全対策を強化



・ミルモット（遠隔監視カメラシステム）

スマートフォン等で遠隔地から現場状況を動画監視可能赤外線照射機能により夜間撮影対応し、ソーラーバッテリーでの運用可能



・おんどロイド（コンクリート養生温度管理システム）

厳寒期のコンクリート養生温度管理等に採用現場事務所は1キロ以上離れているが、リアルタイムにモニタリングすることができ、品質向上を実現



・Tbox（ワイヤレス警報検知システム）

赤外線センサー、衝撃検知センサーなど、現地の警報システムをモバイルネットワークで遠隔地でも検知できるよう、防犯・安全対策を強化



「防災ソリューション」紹介

防災
災害検知

大雨や短時間に降る強い雨の頻度の増加、台風や豪雨による風水害・土砂災害発生リスクが高まっていることから、クラウドを活用した安価で早期に構築可能な「防災ソリューション」を提供

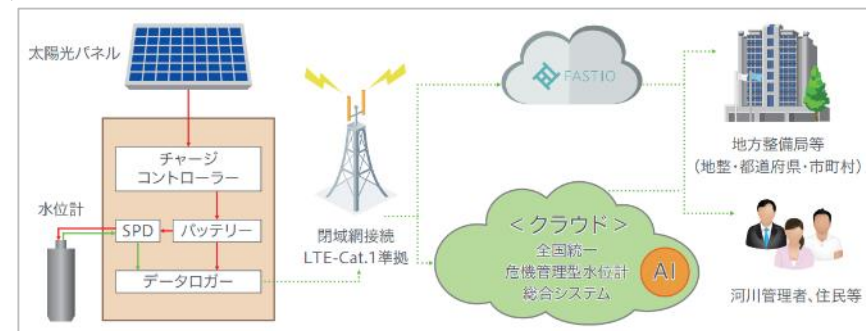
■ サービスイメージ



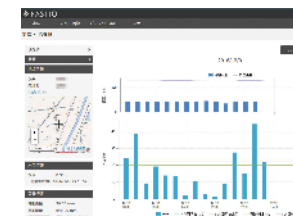
■ 危機管理型水位計パッケージ (国土交通省観測基準対応)

・国土交通省が従来型の1/10以下のコスト(100万円/台以下)、長期間メンテナンスフリー等の自治体負担が軽減する観測基準に準拠した「危機管理型水位計パッケージ」

◇システム構成図



水位計・データロガー等収納ボックス



河川水位確認画面

国土交通省管轄の河川で多数の水位観測実績を有する

■ エコモットの防災ソリューション提供事例



火山防災監視 (監視カメラ)



火山土石流監視 (ワイヤースセンサー)

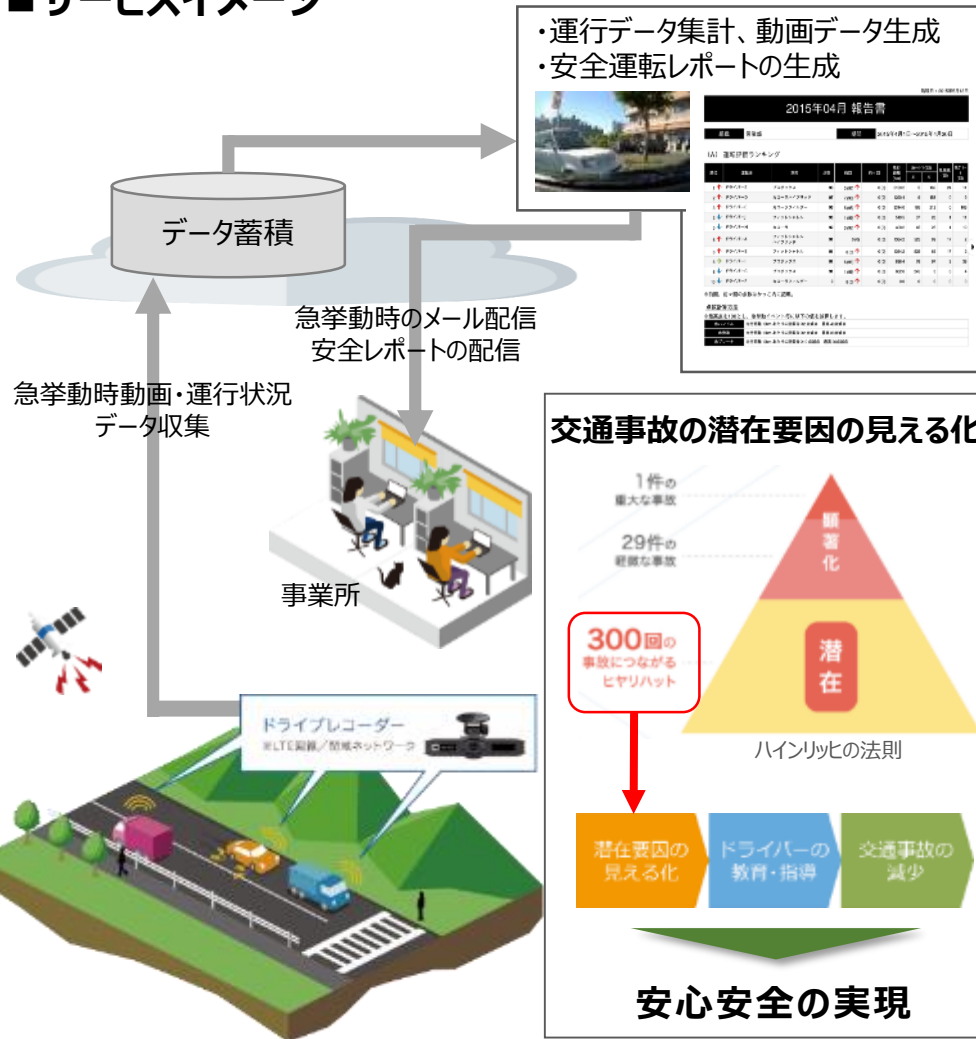


土砂災害の緊急監視 (土砂移動監視)

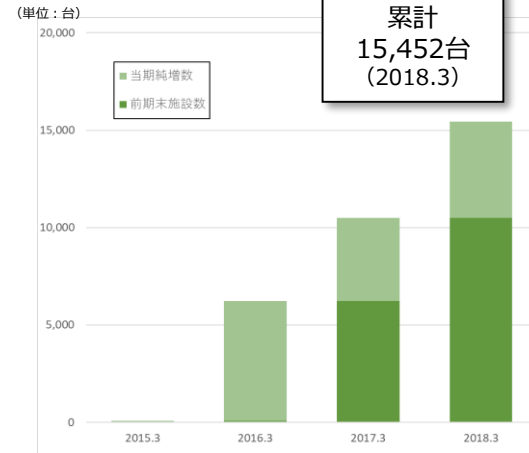
「Pdrive」紹介（車のIoT）

Pd drive モバイル通信を搭載した高性能ドライブレコーダー「Pdrive」をわずか4年で15,000台以上提供
導入により安全意識向上が事故の減少につながり、安心安全の実現へ貢献

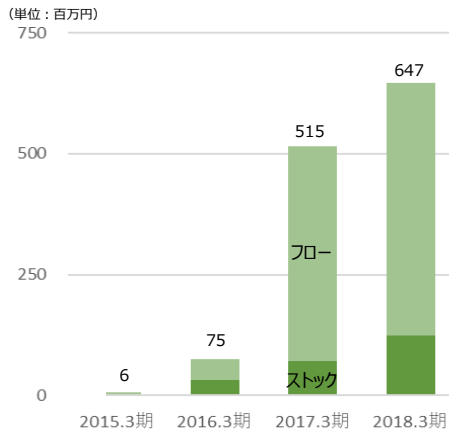
■ サービスイメージ



■ 設置実績



■ 売上高実績（4カ年）



■ 導入事例

札幌市 卸売業へ導入
・導入台数：46台

事故件数削減

7件 → 1件

保険料事故対応諸経費の削減

削減効果額
1,710,000円/年

月次ランキングによる評価

ランキング	ドライバー	評価	点数	平均距離
1	ドライバー-A	フィットシャトル4000S	100点	15.4 km
2	ドライバー-B	プロボックス	99点	2272.3 km
3	ドライバー-C	セウワカ(軽型)プロボックス	98点	2222.8 km
4	ドライバー-D	プロボックス	97点	371.8 km
5	ドライバー-E	プロボックス	95点	1420.9 km
6	ドライバー-F	カローラフィールダー	95点	4113.9 km
7	ドライバー-G	(旧)フィットシャトルハイブリッド	93点	1311.8 km
8	ドライバー-H	プロボックス	93点	299.0 km
9	ドライバー-I	ローラアクロス	91点	622.9 km
10	ドライバー-J	プロボックス	87点	852.2 km
11	ドライバー-K	カローラ	74点	415.5 km

ドライバーごとの特性を把握し、個別指導

ドライバー	危険度	危険度	危険度	危険度	危険度
ドライバー-A	4.00	0.00	23.00	6.00	25.00
ドライバー-B	2.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ドライバー-C	9.00	0.00	0.00	113.00	34.00
ドライバー-D	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ドライバー-E	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ドライバー-F	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ドライバー-G	2.00	0.00	3.00	14.00	3.00
ドライバー-H	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ドライバー-I	12.00	0.00	9.00	140.00	24.00
ドライバー-J	9.00	0.00	4.00	1.00	0.00
ドライバー-K	34.00	3.00	125.00	179.00	14.00
ドライバー-L	4.00	0.00	4.00	144.00	7.00

- **本資料は、情報提供を目的としたものであり、当社株式等特定の商品についての募集・投資勧誘・営業等を目的としたものではありません。**
- **本資料に記載されている見解・見通し・予測等は、資料作成時点での当社の判断です。将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を確認された上で、ご利用ください。**
- **本資料で提供している情報は万全を期していますが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また予告なしに内容が変更または廃止される場合がありますので、あらかじめご了承ください。**
- **本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。**

お問い合わせ先



エコモット株式会社
管理部

TEL : 011-558-6600

Mail : kanri@ecomott.co.jp

URL : <https://www.ecomott.co.jp/>